

「IP化の進展に対応した競争ルールの  
在り方にする懇談会」ヒアリング資料  
消費者の視点から競争政策を考える

2006. 2. 22

特定非営利活動法人

東京都地域婦人団体連盟

# 私たちは多額の通信料金を支払っている

- 総務省家計調査より

1984年 固定電話料金を100とすると

1994年 固定電話料金は108

2004年 固定＋移動は 212



(我が家の実感では3倍近くの通信料金)

- 私たちは、自分にあった料金パックを採用しているか？
- キャリア各社のサービスは分かりやすいか？

# 例えば携帯料金

- ○○割引……それよりも、基本料金を値下げして
- 料金が複雑すぎて、他社との比較が難しい
- この情報をダウンロードするといつたいパケット料金は幾らかかるのか
- 請求されたパケット料の内訳は？



# 新しい技術開発には

- ユニバーサルデザインの視点をはじめから取り入れるべき
- 世の中にだいぶ行き渡ったから、簡単な操作のものを後から作るのではなく、初めからシンプルで分かりやすいものを作るべき
- 余りにもたくさん機能を持たせて、それにユーザーが“ついてこい”ではなく、ユーザーのニーズに合わせた機能開発を
- キャリアは販売方法についても責任を持つべき。不招請勧誘や販売時の説明不足は新たな消費者被害を呼ぶ。

# “ユニバーサル回線会社”という提案について

- 消費者の側から見ると、分かりやすいシステム
- 同じ条件のもとで、公正な競争を行うこと
- 競争の結果が、分かりやすく消費者に提示されるシステムを